

第7回 CIGS「原子力と法」ワークショップ 「原子力エネルギー利用の国際潮流と将来展望」

【開催趣旨】

現在、原子力エネルギーの利用、特に原子力発電については、脱炭素社会の実現に向けた有望なエネルギー源であるという見方と、特に福島事故後の安全性に対する疑念を伴う見方が混在している。この状況について、直ちに回答が見つかるものではないが、少なくとも、原子力発電を取りまく現状を把握するために、国内の議論ではなく、国際的な潮流を知ることにも一助となるだろう。

今回は、OECD（経済協力開発機構）の NEA（原子力機関）の事務局次長であり、内閣府、文部科学省及び IAEA（国際原子力機関）において原子力を長く担当してきた室谷展寛氏をお迎えし、原子力を担当する国際機関から見た、原子力をめぐる国際潮流や日本の脱炭素エネルギー、原子力利用の現状等についてお話いただき、議論する。同時に、既存の利用方法の技術的な課題に加えて、新技術の開発や社会的な文脈をも視野に入れたい。

- 【主催】 一般財団法人 キャノングローバル戦略研究所
 【日時】 2019年10月29日（火） 16:00～17:30（受付開始 15:30）
 【会場】 キャノングローバル戦略研究所 会議室3
 【住所】 東京都千代田区丸の内1-5-1 新丸ビル11F
 【言語】 日本語

【プログラム】

16:00-16:05	趣旨説明 芳川 恒志（キャノングローバル戦略研究所 上席研究員）
16:05-16:55	講演「原子力エネルギー利用の国際潮流と将来展望」 室谷 展寛（OECD 原子力機関 事務局次長）
16:55-17:30	質疑応答 モデレーター：豊永 晋輔（キャノングローバル戦略研究所 「原子力と法」研究会座長）